

ハウス内の湿度制御によるガーベラおよびトルコギキョウの灰色かび病発生抑制効果

背景

ガーベラやトルコギキョウは、ハウス内が多湿になると灰色かび病が多発するため、湿度制御技術の開発が求められていました。

成果の内容

暖房機の昇温、ハウスサイドの換気、循環扇の送風を組み合わせたハウス内湿度制御により、発病花率を大幅に減らせました。

【湿度の制御方法】

機 器	処 理	湿度制御方法
暖房機	昇温	相対湿度90%以上が30分継続すると、13℃設定で加温し、最低3分間継続する
自動サイド換気装置	開閉	①日没1時間前の絶対湿度が10.2g/m ³ 以上になると、日没まで開放
		②日の出時の気温が15℃以上・相対湿度80%以上になると、日の出後2時間まで開放
循環扇	送風	24時間稼働

相対湿度90%以上の時間が少なくなり、発病花率が低下

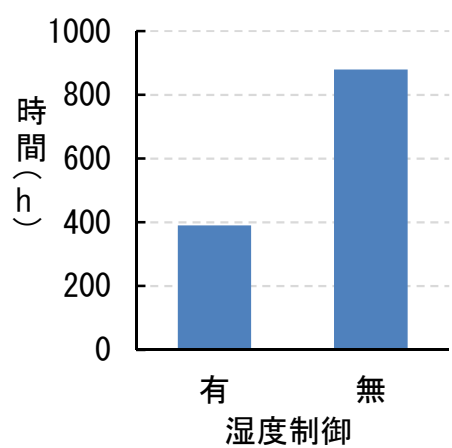


図 湿度90%以上の合計時間

表 湿度制御が発病花率に及ぼす影響

品 目	湿度制御	発病花率 (%)
ガーベラ	有	13
	無	26
トルコギキョウ	有	5
	無	27

※病原菌を接種した条件で実施

【研究者のコメント】

○湿度制御の導入により灰色かび病の発病を抑え、消費者の皆様に美しい花が届けられます。

(苗木・花き部 花きチーム)